



日本プライマリ・ケア連合学会
近畿ブロック支部



発行人：外山 学
事務局 〒550-0001 大阪府大阪市西区
土佐堀1-4-8 日栄ビル703A
あゆみコーポレーション内
Tel.06-6441-4918 Fax.06-6441-2055
E-mail jpca@a-youme.jp
HP primary-care.or.jp/primarycare-kinki/

ニュースレター No.22 (2018.03)

[地方会報告] 第31回近畿地方会 (11月26日)

雨森 正記 (大会長/弓削メディカルクリニック・滋賀家庭医療学センター)

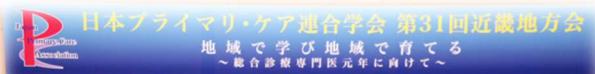
「地域で学び 地域で育てる」をテーマに滋賀県大津市ピアザ淡海にて開催しました。当日は晴天にも恵まれ632名もの参加をいただき熱心に議論していただきました。

開会式では、大会長の開会宣言、滋賀県知事三日月大造氏(代理健康医療福祉部長藤本武司氏)、滋賀県医師会長猪飼剛氏からのご祝辞、祝電披露が行われ始めました。メイン会場で行われる特別講演、大会議場での教育講演、一般演題、ポスター会場、学生・研修医向けセッション、ワークショップなど7会場に分かれて行われました。

メイン会場であるピアザホールでは、滋賀県の赤ひげ大賞受賞者である小串輝男先生の講演、滋賀県出身で小児在宅医療の先駆者である高橋昭彦先生(ひばりクリニック栃木県宇都宮市)、在宅医療で先進的なチーム医療を行っている花戸貴司先生とその現場の写真集を出されている國森康弘氏による講演など行いました。



開会式
雨森大会長挨拶



教育講演は、滋賀県内で活動している全国区の先生方に講演していただきました。一般演題、ポスター発表には94題もの多くの登録をいただきました。その中から「透析導入を遅らせるために、調理実習を主体とした腎臓病教室の報告」という演題で発表された公益社団法人滋賀県栄養士会中村恵氏が最優秀賞を受賞されました。また他に優秀演題が4名に、特別賞が4名に贈られました。(*ページ2に続く)

近畿ブロック支部 (KPCA :Kinki Primary Care Association) について

近畿ブロック(滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県)に所属する学会会員で構成され、ブロック代議員会を最高議決機関としています。

ブロック支部会費は必要ありません。日常的な運営は幹事会が行っています。

- ・ 支部長 : 外山学 (学会理事)
- ・ 副支部長 : 雨森正記 (学会理事)、大島民旗、戸田和夫
- ・ 幹事 : 朝倉健太郎 (学会理事)、鈴木富雄 (学会理事)、福原俊一 (学会理事)
足立光平、石丸裕康、一瀬直日、岡山雅信、梶山泰男、木戸友幸、小泉俊三、関透、高木幸夫
武田以知郎、西尾健治、畑伸弘、羽野卓三、松井善典、三ツ浪健一、森村美奈、吉本清己
- ・ 監事 : 大島久明、水野融
- ・ 顧問 : 空地顕一、松村理司



他に、学生・研修医・専攻医向けのセッションを行い、多くの若手にも参加いただきました。「インスリン注射」「吸入指導」のワークショップは大変盛況で事前申し込み受付は早期に満員御礼になりました。

最後になりましたが、今回の近畿地方会では学術集会に倣ってランチョンセミナーを行いませんでした。その分例年より参加費の値上げになりましたが、多くの皆様にご参加いただき、ご寄付も頂きましたことに深謝いたします。また終始一貫してご支援いただきました滋賀県医師会長猪飼剛様におかれましては不慮の事故にて逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

【代議員会報告】近畿ブロック支部代議員会 (11月26日)

外山 学 (益田診療所/大阪府門真市)

近畿地方会の昼食時に、学会本部から丸山泉理事長のご臨席の下、近畿ブロック支部代議員会が開催されました。参加者は49名でした。

今後の運営に関し、水野融監事(京都)より、地方会における託児所設置の提案があり、今後、実施に向けて検討を進めることとなりました。

また、高木幸夫幹事(京都)から、「近畿ブロック支部専門研修支援部会(仮称)」の提案がありました。



これは、前回代議員会の議論(ニュースレターNo.20参照)を踏まえ、近畿ブロック支部の3大行事(5月の合同オリエンテーション、11月の近畿地方会、3月の専攻医ポートフォリオ発表会)を有機的に連携させることを軸に、50存在する近畿のプログラム間の交流や支援を図る部会を発足させる構想です。プログラム責任者の会との関係や費用についての意見交換の後、大筋において承認され、細部については、今後、幹事会で詰めていくこととなりました。

【支部報告】滋賀県家庭医養成講演会(1月13日)・第8回家庭医療指導医FD研修会(1月14日)

松井 善典 (関西家庭医療学センター・浅井東診療所/滋賀県長浜市)

ロンドン医療センターのダンディー大学の医学教育修士 Diploma を修了された新井大宏先生をお迎えし、恒例の企画に県内多数の指導医が集いました。

13日は「状況対応型のリーダーシップ」をテーマに指導スタイルについて学びました。「リーダーシップと教育?」最初はピンとこなかったのですが、初心者には手取り足取り、成長したら権限と見守りというスタイルが一般的には良いらしいのですが、時に気づかないうちに初心者には権限と見守り(昔はこればかりという話題も盛り上がり!)、成長しても手取り足取りしている指導スタイル(良い指導医のはずが徐々に鬱陶しくなるという本音も飛び出し!)を反省する機会にもなりました。



翌14日のFD研修会では多職種連携をどう教えるか?というテーマに挑み、浅井東診療所と弓削メディカルクリニックの具体的実践を基盤に「多様なニーズ評価」と「構造的調整」を中心にしたカリキュラム作成を専門的に学ぶことができました。「構造的調整」とは、教えたこととカリキュラムがピタッと合うように環境や評価を「調整」することで、何よりしっかりと目標を提示することについての価値を改めて知る機会にもなりました。

二日間で県内の指導医同士の交流の機会にもなり、また今回は未来の指導医となる専攻医の初参加もあって充実した時間となりました!

[支部報告] 第4回大阪府支部年次フォーラム(総会)(1月27日)

梶原 信之(市立池田病院)

大阪医科大学歴史資料館で開催されました。恒例のレジエントによる挨拶は、木戸友幸先生でした。続いて、これも恒例の、鈴木富雄先生(大阪医大)による症例提示とレクチャーでは、今回も印象的な2症例を提示していただきました。

近畿地方会からの一般演題プレイバックは、「学校での心臓突然死を防ぐための小学生および中学生を対象とした一次救命処置教育」高橋直子先生(近畿大学薬学部)、「小学生対象の喫煙防止教室の広報における行政や医師会との連携の有用性」野口愛先生(西淀病院 地域総合内科)で、いずれも学校における健康啓発活動の報告でした。

メイン企画のワークショップ「医療人類学のレンズでの症例検討会」では、西真如先生(京都大学 アジア・アフリカ地域研究研究科) 他を講師にお招きし、医療人類学の紹介から始まって、筆者と山本聡子先生(市立豊中病院)による、いわゆるモヤモヤ症例“有効性が確かな複数の治療を受け入れようとされない患者さんとそのご家族について”の症例提示が行われ、グループでのディスカッション、講師からのコメント、全体討論といった流れで行われました。討論も白熱して「勧めた治療を患者さんが受け入れない」というしばしば経験する問題について様々なアプローチが提案されました。参加者それぞれに得るところのあるワークショップでした。講師の「人間は、周囲の人やモノや出来事とのかかわりの中で自律的な人生を獲得する」との言葉がたいへん示唆的でした。

その後、大阪医大の食堂で行われた懇親会では、懇親会だけの参加者もあり、和やかな雰囲気でした。



[勉強会報告] 2018 関西プライマリ・ケア関連合同新年セミナー(2月4日)

竹中 裕昭(竹中医院/大阪市浪速区)

今年も「深めよう絆、育てようプライマリ・ケア」をテーマに、関西のプライマリ・ケア、家庭医療、総合診療関係のみなさまに御参加いただく新年セミナー・互礼会を行いました。

まず上田夏貴先生(青地うえだクリニック)から、関西医科大学総合診療科から御開業なさるまでの1年間を過ごされた石垣島での臨床経験のお話がありました。

続いて小崎真規子先生(日本プライマリ・ケア連合学会男女共同参画委員)から女性医師支援についてのお話があり、ある男性の履歴書と名前だけを女性に変えた内容が全く同じという2種類の履歴書を作成し評価してもらったところ、女性の評価が有意に低かったという研究結果などを御紹介いただき、世間には「無意識の偏見」があるため意思決定の場に参加する女性が30%を超えるまでは女性がサポートされる暫定的クォーター制の導入が必要であることをお聞きしました。

最後に松本謙太郎先生(国立病院機構大阪医療センター)と北和也先生(やわらぎクリニック)により「ヤブ医者」について参加者全員と両先生が交わすトークセッションが行われました。ヤブ医者とは「知識を持っていて患者のことを考える医師の逆」「よい登場人物として患者の人生に現れない医師」「患者の文脈より自分の文脈を優先する医師」「空気だけで動く医師」「自分を名医だと思っている医師」などの御意見がでしたが、中にはヤブ医者が意外と患者さんを幸せにしている「この先生に看取られたい」と言われていることも少なくないという御意見もありました。



[幹事会企画] プライマリ・ケア医療史の伝承について (4)

「総合診療への道」

木戸 友幸 (愛港園診療所)

1980年に厚生省臨床指導医留学制度第一期生として、ニューヨーク州立大学の家庭医療学プログラムで研修医として3年間を過ごしてから、ほぼ40年になる。この間、2018年の日本の総合診療科誕生までの動きにずっと関わってきたので皆さんに報告してみたい。

帰国後、留学修了者はそれぞれ別の国立病院に勤務し、厚生省班会議で議論を重ね、1985年に「家庭医に関する懇談会」が持たれた。この懇談会には日本医師会からも委員が派遣されており、建設的な意見にはすべて反対された。結果、決まったことは家庭医の機能10項目のみであった。この指導医国費留学は、70年代の日医会長、武見太郎氏の厚生省への進言により決まったことを知る者にとっては、納得のいかないものであった。このこともあってか、80年代後半からは、日本プライマリ・ケア学会と、そこから派生した家庭医療学会と総合診療医学会が、それぞれの分野を担っていくことになった。

2010年に、これら3学会が合併し、プライマリ・ケア連合学会が誕生する。この間、総合診療関係学会がもっとも力を入れてきたのは、研修プログラムの確立とその指導医の育成であった。その甲斐あり、2018年「総合診療科」が基本領域の専門分野として認可されたのである。

蓋を開けると、2018年に総合診療科で後期研修を開始する医師は170名余りと少人数であった。しかし心配ご無用。これから20年は続く高齢者人口の増加と、他の専門科に例を見ない指導体制の充実は、総合診療科の成功を保証している。

(写真 左から、福井次矢氏、筆者、福原俊一氏、伴信太郎氏)

* 週刊医学界新聞 第2620号 http://www.igaku-shoin.co.jp/nwsprr/n2005dir/n2620dir/n2620_01.htm より



[地方会予告] 第32回近畿地方会

***ご注意**：日程が変更になりました！

「皆で織りなすプライマリ・ケア：Learn、Serve、Lead」

- ・会 期：2018年**12月2日(日)** 11月25日(日) <http://pc32kinki.umin.jp/>
- ・大会長：山脇 正永 (京都府立医科大学 総合医療・医学教育学)
- ・会 場：歴史館・稲盛記念館 (京都府立大学) (地下鉄烏丸線北山駅から徒歩5分)
- ・主 催：京都府立医科大学、京都北医師会、上京東部医師会、京都市西陣医師会

[支部からのご連絡]

ブロック支部活動について皆様からのご意見やご提案をお待ちしております！

近畿ブロック支部・各府県支部・公認グループ活動のホームページが整備されました！

<http://www.primary-care.or.jp/primarycare-kinki/> 是非、アクセスしてみてください。

(学会トップページ <http://www.primary-care.or.jp> 左メニュー 支部情報:各支部・研究会連絡先から)

- 1) 府県支部の所属について
- 2) 地域支部・グループ研究活動に対する補助について
- 3) 「専門医・認定医/認定薬剤師 単位申請」及び「ブロック支部補助」申請の手順について
- 4) 府県支部の連絡先について

→上記ホームページをご参照願います。